

1.松くい虫とは

松くい虫は一度感染するとほとんど助からない恐ろしい病気です。元気な松でも僅か数ヶ月で枯死します。山梨県のマツでは、アカマツ、クロマツ、ゴヨウマツがこの病気に罹ります。



萬休院の舞鶴の松(北杜市武川町) H19.2.26 撮影

多くの人々に愛されてきた、樹齢約450年のアカマツ名木です。残念ながら、昨年秋に松くい虫の罹病が当研究所にて確認されました。萬休院では、大変残念ですが、この教訓を、他の松の松くい虫感染防止に役立てて下さいとのことです。市街地の庭のマツも松くい虫で次々に枯れています。予防をお願い致します。

松くい虫の本体は、肉眼ではほとんど見えないぐらい小さなセンチュウ（マツノザイセンチュウ）です。これが、松の中で増殖することにより松を枯死させます。

マツノザイセンチュウは、自分で松から松へは移動することはできません。

しかし、このセンチュウは、マツノマダラカミキリという中型のカミキリムシの体内にもぐりこむことにより、松から松へと移動して被害を広げます。



マツノザイセンチュウ（♀ 長さ約1mm）

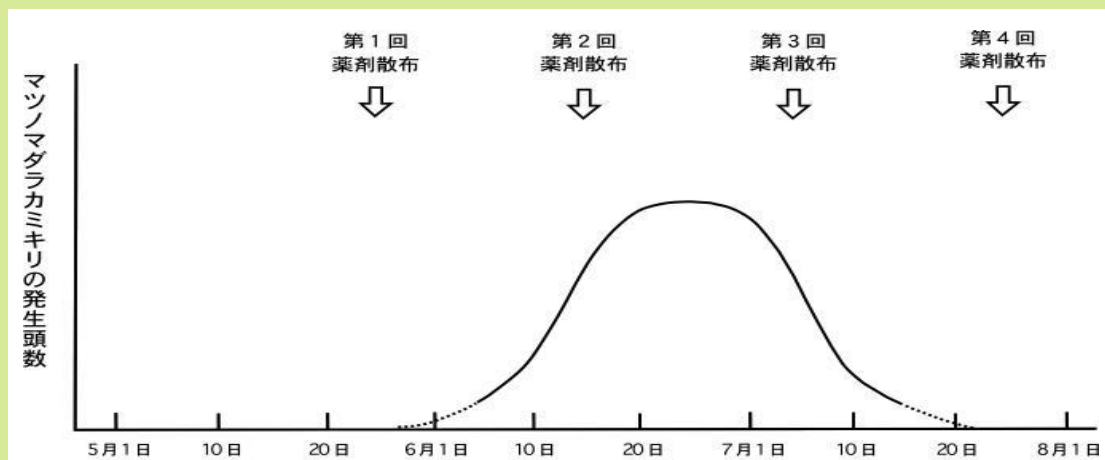


マツノマダラカミキリ（左♀、右♂：胴体の長さ約2cm）

2. 松くい虫の予防と防除

予防薬剤撒布（予防）

マツノマダラカミキリの発生期に、松くい虫予防薬として登録されている薬剤を守りたい松に撒布し、マツノマダラカミキリを殺虫します。十分な効果を得るためには、撒布する時期がとても大切で、発生時期に4回撒布します。第1回目の撒布は発生直前（甲府盆地では5月25日前後）、第2回目の撒布はその20日後（6月14日前後）、第3回目の撒布は、その20日後（7月4日前後）、そして4回目はさらにその20日後（7月24日前後）に行います。撒布は松葉が乾いているときに展着剤を添加してまんべんなく行うことが大切です。



松くい虫予防撒布の時期（第1回～4回）とマツノマダラカミキリの発生状況

樹幹注入・土壌灌注（予防）

マツノザイセンチュウを殺す薬（殺センチュウ剤）を幹から注入する方法（樹幹注入）と、土壌に規定量加えて根から吸収させる方法（土壌灌注）があります。樹幹注入は2月に、土壌灌注は3月に行います。樹幹注入は一度行くと5年ほど効果が継続するものがあります。いずれの方法も、マツノマダラカミキリが発生する頃までには、守りたい松の樹体すべてに殺センチュウ剤がまわっており、侵入してくるマツノザイセンチュウを殺します。

松くい虫被害木の処理

松名木の近くに松くい虫で枯れた木（松くい虫被害木）がある場合、そこから発生するマツノマダラカミキリが、松名木に松くい虫を感染させる恐れがあるため、可能な限り松くい虫被害木を処理しなければなりません。

松くい虫被害木の内部には、多くの場合、マツノマダラカミキリの幼虫が生息しており、5月下旬から成虫になって外へ飛び出してくるため、まだ幼虫のうちに幹ごと処理（殺虫）します。切り倒して幹に殺虫剤をかける方法と幹ごと粉々にする方法がありますが、いずれも幹から枝まで幼虫のいる可能性がある部分は全て処理しなければなりません。

松名木の近く（700 m 以内）で松くい虫被害木が発生した場合、被害木の処理を行うとともに、被害木がある間は、松名木に樹幹注入と予防薬剤撒布の両方を行うと良いでしょう。

尚、松くい虫の予防や駆除は、森林組合や松くい虫のことを良く知っている造園業者等をお願いするのが一般的です。また、松くい虫に関する問い合わせは、山梨県森林総合研究所（0556-22-8001）、みどりの相談所（055-276-2020）で対応しています。

松くい虫防除の要点

- ・ 松くい虫に罹ると、助からない（罹ってからでは遅い）ので予防が重要です。
- ・ 予防方法には、予防薬剤撒布、樹幹注入、土壌灌注があります。樹幹注入は一度行くと長期間持つものがあります。
- ・ 松くい虫で近くの松が枯れている様な状況下では、予防薬剤撒布と樹幹注入あるいは予防薬剤撒布と土壌灌注の両方を行うとより安心です。
- ・ 予防薬剤撒布は撒布する時期が重要です。また、松枝葉全体に撒布する必要があります。
- ・ 松くい虫被害木は、5月半ばまでに処理をしないと他の松に被害を広げてしまいます。

監修：山梨県森林総合研究所
森林研究部
主幹研究員 大澤正嗣

編集 普及指導部
林業普及指導員 中桐秀晴
TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002